

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ベにばな)

事業所番号	0670100940		
法人名	株式会社東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑 山形		
所在地	山形県山形市松波一丁目11番8号		
自己評価作成日	平成 21年 9月 30日	開設年月日	平成 13年 1月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do">http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 11月 16日	評価結果決定日	平成 21年 12月 3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事である「お花見会」や「日帰り旅行」や「夏祭り」などは家族の方、地域の方も参加して下さります。西蔵王には畑を借り、種まきに期待、成長の楽しみ、収穫の喜びを味わっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物は年数が経過しているものの、内容は濃く、近所のすし屋からの出前や、月2回魚屋からの協力で刺身の日が続いており、定例となっている。茶話会も開かれたり、また西蔵王の畑を借り、収穫の喜びを味わう等、理念にある「地域と共に」を実践に繋げている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で楽しい生活が送れるよう理念に取り入れ、毎朝理念を復唱し、各ユニットに掲示している。	「利用者が地域の中で楽しい生活を送る」という事業所独自の理念を10年前から継続され、毎朝の申し送り時に唱和し、意識して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のあいさつ、会話はもちろんの事、当苑の行事には参加を呼び掛け、参加してもらえる事が増えている。	町内で3名の方が、自主的に防災協力員として申し出があり、月に1回開催の茶話会は、お茶の先生2名(親子)を中心に地域の方と利用者の交流や花見、夏祭り等の行事に参加してもらったり、積極的な関わりが見られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公園道路沿いの清掃につとめ利用者との活動である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、意見交換を密に行っており、サービス向上につなげるよう努力している。	職員側から、事業所の報告や説明があり、その後委員会のメンバーから貴重な意見をもらう事もあり、双方向的な会議になる為の配慮が見られる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1ヶ月に1回、介護相談員が来苑し、実際の生活状態を見てもらい、意見交換やアドバイスを頂いている。	1ヶ月に1回介護相談員を受け入れており、来苑毎に時間帯を決めず、その場の状況を見てもらいながらの関わりと意見交換等もできている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	カンファレンス等で管理者から詳しく説明を受け理解している。日中は施錠なく自由に日光浴等を行っている。身体拘束をせず、個別対応で取り組んでいる。	カンファレンス等で管理者からの詳しい説明があり、身体拘束は行わず、拘束のないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加し学習している。スタッフ間でも話し合い防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者がいるため、後見人より話を聞く事があり、その内容をミーティング等で説明を受けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やケアマネが十分に説明を行い理解、納得を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時など、家族が話せる環境を作り運営に反映している。 家族会も活用し意見を聞いている。	年1回の家族会や面会時、介護相談員の訪問等が、利用者や家族等が何でも話せる場となっている。電話や対応時の内容もメモする事を心がけ職員で共有し、運営に反映している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長、課長と共に月1回のミーティングで意見交換を行っている。毎朝の申し送りでも話し合いができています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は個人の都合も含め希望休日取得できるよう勤務表作成者は配慮している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等を考慮し、職員個人に合った研修に参加している。研修内容の報告する機会も設け、共有のものとしている。	各自の経験や習熟度の段階に応じた研修内容で学習の場を提供し、それらの研修報告を共有し、人材育成に繋げている。	事業所外で開催される研修に、より多くの職員が参加され、更なる質の向上に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への交換研修に参加したり、研修会に参加し、情報交換をして、更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡会主催の勉強会、交換研修、訪問研修等に参加し、交流を図りながら、ネットワーク作りに努めサービスの質の向上に取り組んでいる。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネが面接や来苑し見学してもらい現状を把握し、安心して生活していけるよう、信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネが面接し、現状を把握して信頼関係を築いている。要望は迅速に対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接等で、管理者やケアマネが話し合いの中で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特技の発表や、得意な事、調理、清掃、家事など、職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事参加を促し、本人と家族のコミュニケーションの場を設けている。通信紙の発行では近況報告も行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は特別な事がない限り自由で、知人等もよく来苑してくれる。行きたい床屋など要求があればできる限り支援する。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は顔を合わせながら食事やお茶を楽しみ家事や行事等を通じて連帯感を持っている。居室の行き来も自由である。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が親身になり対応している。入院になった利用者へは面会も密に行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から個人の要望を聞き出し、カンファレンスで確認し、できる限り希望に添えるよう支援している。	利用者の立場に立ち、同じ目線でとらえ、細かい部分の気づきを大切にし、日常生活に不安のないよう支援に取り組まれている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やアセスメントシートを把握しカンファレンスなどで再確認している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の報告、連絡を徹底したり、個人記録を通じて把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを全職員で行い、本人や家族の意向も取り入れた介護計画を作成している。	日々のサービスの中で受け持ち制を活かし、職員からの気づきや情報を共有し合い、利用者、家族等の意見を反映しながらの計画作成となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を具体的に記入し、日々の介護で見直しできる事は検討し、実践している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れ 定期的に消防署を交えた防火訓練等の参加			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月2回の往診を受けている。かかりつけ医は当苑の協力医療機関の医師であるため心強い。	利用者や家族等の希望により、大半は協力医療機関に変更し、定期往診や必要に応じて通院ができるよう連携がとられている。通院の支援は職員が主となり、受診結果は随時、家族等へ報告がなされ、職員は記録やミーティングで共有できるようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	特変があれば看護師に報告し、適切な指示を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を行い、退院後のリハビリが必要な場合は対応できる体制を整えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	身体苦がなければGHで見守るべきと思っている。段階毎に家族には現状説明・理解を求め享禄を求める事もあり	重度化した場合の対応や看取りに関しての指針は文書化し、必要時家族に渡し説明されている。医療機関と連携を図り、状態の変化がある毎に、利用者、家族と相談し、情報を職員全員で共有しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本、マニュアルはいつでも見られるよう常備しているが、応急処置、急変時の訓練は不足している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や月2回の経路訓練など定期的に行っている。 災害時協力者も3名確保している。	年2回消防署や地域の方の協力を得て、防災訓練を実施している。事業所独自でも定期的に利用者と一緒に避難経路を歩きながらの訓練や時間の計測、緊急時を想定した職員の通報訓練も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前で恥ずかしい思いをしないよう配慮した声掛けをし、心ない言葉等があれば職員同士で注意している。	利用者一人ひとりへの尊厳の気持ちを大切にし、日頃の支援の場面でも声かけや対応に気を配り、職員同士で確認しあうようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いや希望を聞き出す工夫をし、自己決定ができるよう促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の力量にあった活動内容を選択してもらっている。ただ、スタッフの都合でその日の行う事を決めてしまうこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は外出着と普段着に分けたり、重ね着がある時などは声掛けをしつつ、できる限り自ら選んだ物を否定しないで見守る。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では主役にメニューを決めてもらったり、調理では職員に色々教えてくれたりと一緒に楽しみながら行っている。	献立は利用者の意向と自分達で育て収穫した旬の食材に基づき決めている。食事の一連の作業も利用者と一緒にしない、共に食卓を囲んでいる。回転寿司への外食やラーメン屋が訪問しての調理、恒例のお刺身の日には魚屋から配達してもらう等地域の方との交流を通じて、食事が楽しみとなるような支援がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足がちな利用者には好みのコーヒーやポカリ、くず湯、アイスなどで水分を補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行っている。介助が必要な利用者は一緒に行うよう支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレで行っている。失禁を未然に防ぐよう定時での排泄誘導でリハパンから布パンツに変わった利用者も数名いる。	排泄チェックシートを使用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導により全員トイレで排泄できる支援を行なっている。地域やボランティアの方から寄附していただいた布を活用して、トイレにウエスを常備し、気持ちよく排泄する為の工夫がなされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には毎日牛乳を摂ってもらっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回は入浴し、個別に応じた入浴法で楽しんでいる。汗の有無や汚染時には、その都度対応している。	利用者の希望を聞きながら、週3回は入浴してもらうようにしており、基本的には午後の時間帯となっている。拒否のある方には時間をずらして声かけをしたり、シャワー浴や部分浴等の支援で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理な声掛けでなく、個人の生活リズムに合わせて就寝、起床を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも見れるようファイルしている。服用時には手渡し服用を確認している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を活かした日課となる役割担当が職員と行ったり自ら行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族旅行や外食など年間の予定に設けている。普段の外出(買い物、ドライブなど)は頻繁に出かけ気分転換を図っている。	買い物、ドライブ、外食等、日常的な外出支援、また、花見や森林浴、花笠祭り等への季節に合わせた月毎の外出支援が、利用者一人ひとりの希望に応えた形となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力がある利用者はお金を所持し、買い物などで使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族と会話をし、涙ぐむ事も見られる(嬉し泣き)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂窓より公園が見え、桜や木々、雪景色を眺め季節を味わっている。その時々の花を飾ったり、書など展示ものを季節ごと変えている。	ホーム内には、季節感を感じる装飾や書やさしこ等利用者が創作された作品が掲示され、温かみのある空間作りが行なわれている。利用者が好きな場所で過ごせるよう所々にゆったりとしたソファが置かれ、猫と一緒に過ごせる癒しの場となっている。日当たりのいい食堂からは千歳山やべにばな公園を一望でき、また、温度や湿度を管理し状況に応じてブラインドや加湿器を設置する等利用者が快適に過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるよう所々にソファを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人に使い慣れた馴染みのあるタンスやベッドを持参してくる方が多い。 好きな芸能人のポスターも貼っている。	使い慣れた寝具類、箆笥、テーブル、仏壇、家族や愛犬の写真等、利用者の好みの物が持ち込まれ、安心して過ごせる明るい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が多いが、転倒事故も少なく逆にリハビリにつながっている様子。		